

平成28年度
府民利用施設のあり方検証結果報告

平成28年10月

京 都 府

目 次

1	はじめに	1
2	検証の基本的な考え方	2
3	検証の結果	4

(資料) 府民利用施設調書

1 はじめに

(府民利用施設)

府民利用施設（公の施設等）は、主に府民福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設のことをいい、京都府では都市公園や公営住宅といった基盤施設をはじめ、文化教育施設、スポーツ・レクリエーション施設、福祉医療施設などを設置している。

(これまでの取組)

府民利用施設の運営については、民間事業者等の能力や経験を活用することにより、府民サービスの向上と効果的かつ効率的な管理運営を目指すことを目的に、平成 18 年度から 45 の施設において指定管理者制度を導入しており、施設利用者の増加や管理運営費の節減など一定の成果が認められるところである。

また、「府民満足最大化プラン」（平成 21 年 3 月策定）では、府民利用施設について、「NPO・民間企業・市町村等を含めた最適な運営主体による管理や協働運営の検討」をはじめ、「府民ニーズ・公的必要性に基づく抜本的見直し」などを行うこととしていたことから、府民満足の最大化に向け資金・施設等の限られた京都府の財産を有効に活用することを目的に、当プランに基づき、平成 23 年度から指定管理者及び施設活用団体（以下「指定管理者等」という。）の選定替え等に併せ、施設のあり方について今日的な視点から検証を行ってきた。

<検証実績>

23 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	37 施設
24 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	7 施設
	直営施設	2 施設
25 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	5 施設
26 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	13 施設
	直営施設	1 施設
27 年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	3 施設
	直営施設	2 施設

(平成 28 年度の取組)

「府民満足最大化プラン」の後継である「府民満足最大化・京都力結集プラン」（平成 26 年 7 月策定）では、府民利用施設について、「民間事業者等の有する様々なアイデアやノウハウの活用により、施設の持てる可能性を最大限に引き出し、府民サービスの質を高めることで府民満足の向上を図る」こととしており、社会経済情勢が変化する中、これまで以上に府民満足を高め、多様で質の高い、利用者により魅力のある府民サービスを提供していくため、引き続き、府民利用施設のあり方について今日的な検証を行い、施設運営の改善へと繋げていく必要がある。

このため、平成 28 年度については、以前に検証を実施した施設のうち、29 年度に指定管理者等の選定替えを行う 16 施設について検証を実施した。

2 検証の基本的な考え方

(1) 検証の概要

今回の検証では、検証対象施設について、近年の施設の利用状況、府の財政負担の状況、施設改修の予定等の施設の現状について、後述する「公共性」、「有効性」及び「効率性」の視点から検証するとともに、府民サービス等改革検討委員会における意見も参考として、施設の課題・問題点等を洗い出し、総合的な判断により「見直すべき施設」、「改善を要する施設」及び「当面継続が妥当な施設」に区分した。

また、施設の運営形態について、「代替性」の視点から、「府の直営とするか」、「指定管理者制度又は普通財産の無償貸付（以下「指定管理者制度等」という。）による運営とするか」について検証を行った。

(2) 検証対象施設

今回の検証については、平成 29 年度に指定管理者等の選定替えを迎える 16 施設を対象とした。

① 指定管理者制度導入施設

京都府立陶板名画の庭
京都府立洛西浄化センター公園
京都府立総合社会福祉会館
京都府立けいはんなホール
京都府立府民の森ひよし
京都府立伏見港公園
京都府立山城総合運動公園
京都府立府民スポーツ広場
京都府立関西文化学術研究都市記念公園
京都府立丹波自然運動公園
京都府立木津川運動公園
京都府立るり溪少年自然の家

② 普通財産無償貸付施設

京都府京都文化博物館
ぶらり嵐山
京都府民総合交流プラザ
丹後王国「食のみやこ」

(3) 検証の視点

今回の検証においては、施設の現状について、「公共性」、「有効性」及び「効率性」の3つの視点から検証を行うとともに、運営形態に関しても「代替性」の視点から検証を行った。

各視点の具体的な内容は次に掲げるとおりである。

1 公共性	①公益性	ア 今日的な視点から、設置目的の意義が低下していないか イ 利用実態が設置目的に即したものとなっているか ウ サービス内容が設置目的に即したものとなっているか
	②必需性	ア 府民の安心・安全の確保等、府民生活を営む上での必要性が高いか イ 府の施策を推進する上での必要性が高いか ウ 法律等により設置が義務付けられているか
2 有効性	①利用度	ア 会議室やホール、競技場など、利用率の状況はどうか イ 入居施設に係る入居率の状況はどうか ウ 過去3年間の利用者数の推移はどうか エ 利用者満足の上に対する取組の状況はどうか
	②互換性	ア 同種・類似の施設が存在するか イ 補助金などの代替施策で対応できるものか
3 効率性	①コスト	ア 利用者1人あたりの府負担コストの状況はどうか イ 経費に占める府費負担割合の状況はどうか
	②将来負担	ア 今後5年以内に大規模改修などの予定はないか
4 代替性	直営とする施設	ア 行政以外にサービスを提供する民間事業者等が存在せず、民間参入の可能性がない施設 イ 施設運営に民間事業者等のノウハウの活用が期待できない施設 ウ 施策を推進するに当たって、府が自ら運営主体として関与しなければならない施設

(4) 検証作業

上記(3)に掲げる検証の視点に基づき、検証対象施設に係る運営状況、利用状況のデータ(書面)による検証に加え、現地調査及び所管部局からの説明の聴取、質疑を実施した上で、府民サービス等改革検討委員会の各委員より意見を聴取した。

各施設の課題・問題点等を洗い出した上で、これらの意見を参考とし、施設のありについての検証結果をまとめた。

《参考：府民サービス等改革検討委員会名簿》

氏名	職業等
石原 俊彦	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授 ※委員長
鳥居 聡	(株)スターナビゲーション・アソシエイツ 代表取締役
モナト久美子	業態開発総合研究所 所長
山下 由美	サンスター(株)ダイレクト営業部 コンタクトセンターグループ長

(五十音順、敬称略)

3 検証の結果

各施設の検証結果

(総括)

今回の検証の結果、対象施設について、次に掲げる区分に分類を行った。

- ① 見直すべき施設 (該当なし)
- ② 改善を要する施設 (3施設)
- ③ 当面継続が妥当な施設 (13施設)

(運営形態に係る検証)

また、施設の運営形態（直営又は指定管理者制度等）に関する検証結果については、今回の検証対象のいずれの施設も現行の運営形態を継続することが適当と判断した。

(各施設の検証結果)

各施設の検証結果は、以下のとおりである。

府民利用施設のあり方検証結果

(1) 改善が必要な施設 (3施設)

●京都府立陶板名画の庭

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p>継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物件費等の削減など、より効率的な運営に取り組むこと。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の北山街協同組合が指定管理者として運営するにあたり、地域に密着した効果的・効率的な運営を実施するとともに、委託業務内容の見直し等により経費削減を実現。 ・ 安藤忠雄氏の設計による施設訪問を目的とした外国人（特に台湾・中国）等の利用者の増加により、ホテルやタクシーへのチラシ配布、旅行会社向けHPの構築など広報PRを強化。 ・ 隣接する府立植物園と連携して、相互に利用者を誘客するため、お得な共通入園券を発売。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物件費が約14%減少 ・ 利用者が約43%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆竣工後23年を経過し、建物・設備等の老朽化が進行</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □当初の設置経緯と府民生活を営む上での必要性について、再検証すべき段階にきている。 □本施設の事業領域が、利用者にとってどの程度有効なのかモニタリングする必要がある。 □府の負担割合が高く、さらに老朽化対策の追加投資も踏まえ、本施設の今後について考えるべき。 □コミュニティアートやエリアデザインなどの情報発信拠点として今後の発展が期待できる。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p>要 改 善</p> <p><改善方策></p> <p>◎当初の設置趣旨と経過、公共性、利用者にとっての有効性を検証し、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けた文化発信事業等において、当施設を幅広く活用できるよう、北山文化環境ゾーンの今後の構想において、他の施設等と連携した文化芸術や北山地域の魅力の発信拠点としての更なる活用など、中長期的な戦略を検討すること。</p> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆北山文化環境ゾーンについては総合資料館跡地活用等検討委員会におけるゾーン全体のランドデザインの議論を踏まえながら、老朽化した施設・設備の改修・更新も含め、中長期的なあり方を検討する。 ◆2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本施設におけるアート発信などを通じたさらなる集客を図るため、以下の取組を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ○公式HPのリニューアル及びSNSでの情報発信など広報活動の強化。 ○アート空間として伝統と現代が出会う創造的な文化事業の展開。

○植物園北泉門及び京都学・歴彩館のプロムナードの完成を機に
各施設と一層連携し、来園者の回遊性を向上。

●京都府立総合社会福祉会館

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p style="text-align: center;">—</p>																																
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者のリピーター化につなげるため、新規顧客に対して利用時に次回予約の聴取を実施。 ・継続利用者に対しては予約管理表を送付し、さらなる利用促進を図る。 ・近隣の大学や施設に会館リーフレット配架等を依頼。 																																
<p>取組の成果</p>	<p>◇数値目標の達成に向けた運営を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 <table border="1" data-bbox="443 562 1417 725"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>130,000人</td> <td>130,000人</td> <td>130,000人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>118,283人</td> <td>120,181人</td> <td>118,027人</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>91.0%</td> <td>92.4%</td> <td>90.8%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・会議室利用率 <table border="1" data-bbox="443 804 1417 972"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>72.5%</td> <td>72.5%</td> <td>73.1%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>71.7%</td> <td>73.0%</td> <td>71.4%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>98.9%</td> <td>100.7%</td> <td>97.7%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H25	H26	H27	目標値	130,000人	130,000人	130,000人	実績値	118,283人	120,181人	118,027人	達成率	91.0%	92.4%	90.8%	年度	H25	H26	H27	目標値	72.5%	72.5%	73.1%	実績値	71.7%	73.0%	71.4%	達成率	98.9%	100.7%	97.7%
年度	H25	H26	H27																														
目標値	130,000人	130,000人	130,000人																														
実績値	118,283人	120,181人	118,027人																														
達成率	91.0%	92.4%	90.8%																														
年度	H25	H26	H27																														
目標値	72.5%	72.5%	73.1%																														
実績値	71.7%	73.0%	71.4%																														
達成率	98.9%	100.7%	97.7%																														
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆営業活動などの取組が、利用料金収入、利用者数、全体利用率の増加につながっていない。</p>																																
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □会議室の貸出の仕組み等が、利用者のニーズとマッチしていないのではないか。 □施設に係る管理運営費を考えると、利用率をさらに上げる必要がある。 □利用者目線にあった会議室の利用時間帯の見直しが強くと望まれる。 																																
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">要 改 善</p> <p><改善方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎好立地を活かし、近隣の大学等との連携により、利用者数の増加を図るためのさらなる取組を行うこと。 ◎施設貸出の時間区分など施設利用者のニーズにあわせた柔軟なサービスを検討し、利用率の改善を図ること。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の利便性や低料金を若年層にもアピールできるリーフレット等にデザインを見直し、大学を中心とした京都市内の施設や企業等の配布対象を拡大するなど一層の営業強化を行う。 ○営業やリピーター確保に活用するため、利用者ニーズをより明確に把握し詳細に分析できるアンケート用紙に見直す。 ○顧客満足度を高めリピーターの獲得につなげるため、会場設営やタクシー配車などのサービスをチラシなどにより積極的に紹介することで、利用者の利便性を向上させる。 																																

●京都府立府民スポーツ広場

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山城総合運動公園との一括募集の必要性が認められないことから、各施設毎に募集すること。 																
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節により、利用時間の拡大や開園日の増加を実施。 ・平日の利用拡大のため、平日の利用料金を半額にした。 ・平成24年度から、山城総合運動公園と府民スポーツ広場は各施設毎に指定管理者の募集を実施。 																
<p>取組の成果</p>	<p>◇数値目標の達成に向けた運営を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料金収入 <table border="1" data-bbox="443 577 1415 743"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>6,120千円</td> <td>6,180千円</td> <td>6,240千円</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>5,097千円</td> <td>4,649千円</td> <td>4,844千円</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>83.3%</td> <td>75.2%</td> <td>77.6%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H25	H26	H27	目標値	6,120千円	6,180千円	6,240千円	実績値	5,097千円	4,649千円	4,844千円	達成率	83.3%	75.2%	77.6%
年度	H25	H26	H27														
目標値	6,120千円	6,180千円	6,240千円														
実績値	5,097千円	4,649千円	4,844千円														
達成率	83.3%	75.2%	77.6%														
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆利用者促進の取組が、利用料金収入、利用者数、利用率の改善につながっていない。</p>																
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □昨今のスポーツ施設として、どういう種類の施設が求められているかに着目して、府全体のスポーツ施設の供給量を勘案し、運営を考える必要がある。 □平日の利用率が低いことから、隣接する府有施設も含め、地域の代替・類似施設との棲み分けについての検証が必要。 □平日の利用促進策を検討する際には、既存のグラウンドを改造して他のスポーツに対応できる方法を考えることも有用。 □若いターゲットに訴求するグラウンド利用等について検討してはどうか。 																
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">要 改 善</p> <p><改善方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎時代の変化に対応したスポーツ施設ニーズを研究するなど、特に平日利用者の増加を図る取組を検討すること。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○指定管理者募集において、応募者に対して平日利用者増加を図るためのイベント開催の提案を求める。 ○駐車場からグラウンドへの高低差が大きいため、駐車場の移設などアクセスの改善に向けた検討を進める。 ○トイレの水洗化など利用環境の整備を図る。 																

(2) 当面継続が妥当な施設 (13施設)

●京都府立洛西浄化センター公園

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p style="text-align: center;">—</p>
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスコートの夜間照明設備の設置により、夜間利用を開始。 ・5～9月の夏季に開園時間の延長を実施。 ・自主事業の充実や京都サッカー協会主催の大会誘致などを積極的に実施。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約14%増加 ・利用料金収入が約27%増加 ・府負担割合が約3%低下し、他の府民利用施設と比較しても低い水準を保っている。
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆多くの利用を促進するための周知が必要。</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□浄化センターの上部を有効活用している施設であることを評価する。</p> <p>□利用者数が順調に増加していることから、洛西地域における認知度は高いと考える。</p> <p>□施設利用については、地元地域以外も意識した広報活動も検討すべき。</p> <p>□府の同種施設の運営を参考に、さらなるコスト削減を努力してはどうか。</p>
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎施設利用者の属性や利用ニーズを分析した上で、的確な広報や利用促進の取組により、施設の利用率の向上を図ること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○洛西地域以外への認知度を高めるため、新たな地域等への広報活動の拡大を行い、利用率の向上を図る。</p>

●京都府立けいはんなホール

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料金の水準について検討を行うこと。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年4月に利用料金の値下げを実施。 ・ 利用者ニーズに応え、会議室利用は1日3区分の料金に設定した他、2時間を基本とした料金も設定。 ・ 施設利用料の割引を盛り込んだ「学校プラン」制度を創設。 ・ 収益配分のあり方を見直したことで、共催事業の黒字を確保。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料金収入が約10%増加したことによる収支改善 ・ ホール利用率が約6%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 収支は改善しているものの、依然として赤字。 ◆ 利用率は増加しているものの、施設全体の利用率が約20%台と低い。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 誰にどういった目的で利用してもらうかのPDCAをしっかりと運用すること。 □ 費用対効果を勘案し、エリアの魅力の一部となるような改善作業を行うことが重要。 □ 近隣府県をパートナーとした連携及び事業展開を検討すべき。 □ 例えば集客力のある新規テナントの導入を含め、新たな収益の柱となるような事業を積極的に検討してはどうか。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎ 関西文化学術研究都市が他府県にまたがっている立地を活かし、近隣府県と連携したコンベンションの誘致など、利用者の増加を図ること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の拡大を図るため、インセンティブプラン（国際会議プラン、学校プラン、研修会プランなど）を企画し、積極的なセールス活動を行う。 ○ 11月初旬に開催予定の本格的な国際会議APECTEL54を成功に導き、その実績をもとに、隣接する他府県とも一層連携を強化し、コンベンション誘致に取り組み、新たな利用者の獲得を目指す。

●京都府立府民の森ひよし

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林業大学校やモデルフォレスト運動での利用に加え、地元団体等関係機関との連携等をより一層強化した利用促進の取組を検討すること。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業大学校の実習フィールド、モデルフォレスト運動の拠点としての利活用を推進。 ・ 府内の生徒の体験学習の受入や子供向け体験行事の場として提供。 ・ 平成25年10月にJR西日本とモデルフォレスト運動に関する協定を締結し、敷地内に「Club J-WESTの森」を設置し、年2回の活動を実施。 ・ 「森の京都」の入口として、また、平成28年3月に指定された京都丹波高原国定公園における重要施設として、さらには平成28年10月に開催される全国育樹祭の式典行事の開催場所として広くPRを実施。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料金収入が約3%増加 ・ キャンプ場利用率が約2%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用率の高い設備でも約50%で推移し、特に平日の利用率の改善が必要。 ◆ 近隣には類似施設がいくつかあり、役割分担の検証が必要。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p><input type="checkbox"/> 設置目的に合致するPRが府民に対して十分にできていないと感じる。</p> <p><input type="checkbox"/> 単一目的でない施設利用の在り方を検証し直し、利用率を上げるためのさらなる努力を期待する。</p> <p><input type="checkbox"/> 大学等のゼミ合宿施設としての利用促進を企画してはどうか。</p>
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎複合的な施設利用を検討し、利用者の拡大を図る取組を実施すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○全国育樹祭の開催地として、今後知名度向上が見込まれるため、設置目的に沿った事業をさらに積極的に展開するとともに、大学などへのPRも強化し、利用者拡大に取り組む。</p>

●京都府立伏見港公園

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p style="text-align: center;">—</p>
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用時間の拡大や開園日を増加。 ・ 平成 26 年度にプールのリニューアルを実施。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近 3 箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数が約39%増加 ・ 利用料金収入が約24%増加 ・ 体育館利用率が約 1 %増加し、他の類似府民利用施設と比較しても高い水準を保っている。
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆相撲場の利用率が低い。</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□利用率、利用者数から見ても、府民の満足度が高いと考えられる。</p> <p>□近隣の防災拠点としての本施設の位置づけを改めて再確認し、地域と共有化することが望まれる。</p> <p>□主要施設について、利用率が高く、評価したい。</p> <p>□相撲場の利用率向上のための新施策を展開することを検討してはどうか。</p>
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎体育館やプール等の主要施設の利用率が高いことから、利用者ニーズを分析し、相撲場の利用率向上のための取組を検討すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○アンケート結果や利用者の声をもとに、利用者の増進に向けた相撲大会などスポーツ教室等のイベントを検討する。</p>

●京都府立山城総合運動公園

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府民スポーツ広場との一括募集の必要性が認められないことから、各施設毎に募集すること。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技場の夜間照明、テニスコートの屋根、クラブハウスを設置。 ・開園日を増設、開園時間を延長。 ・大規模行事の誘致（音楽イベント「京都大作戦」） ・平成24年度から府民スポーツ広場と山城総合運動公園は各施設毎に指定管理者の募集を実施。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約5%増加し、過去最高を記録 ・テニスコート利用率が約8%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆テニスコート利用率は増加しているものの、陸上競技場及び野球場利用率は減少。</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □利用者数は大幅に増加している一方で、利用率はさらなる向上の余地がある。 □府の負担割合は65%であるが、利用実績からすると京都府南部地域におけるスポーツ活動の拠点としてエリアでの認知度は極めて高いと考える。 □老朽化施設のリニューアルや保守のための損益コストを平準化するための改革案の立案が求められる。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎テニスコート施設の整備を実施したことによる増加した利用者ニーズを分析し、施設全体の利用率の向上のための取組を実施すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○利用率の高い他の施設が行う大会やスポーツ教室等を参考に、施設全体の利用率を高める取組を実施する。</p>

●京都府立関西文化学術研究都市記念公園

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p style="text-align: center;">—</p>
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開園日、利用時間を拡大（特に夜間イベント時は21時まで）。 ・水景園（入場料200円）の無料開放を実施。 ・ニュースレター、こどもレターの発行による積極的な広報を実施。
<p>取組の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇平成26年度の利用者数が過去最高を記録。 ◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、利用料金収入が約5%増加。
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地元市町の利用者が約60%を占め、府内利用者の広がりが不十分。 ◆府費負担割合が高く、立地を活かせていない。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □非常に立派な公園なので、広く府民全体や近隣他県からのビジターに配慮した公園としての機能アップを目指してはどうか。 □設置目的を再考したうえで、府民に喜んでもらうように様々な企画を実施すべき。 □広く利用者呼び込むために、府民への積極的な広報活動をすべき。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎当初の設置趣旨と立地環境を踏まえ、より多くの府民利用を促進する取組を実施すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケート結果を基にした利用促進が期待できる取組を実施する。 ○ツイッター等SNSの活用や、関西文化学術研究都市立地企業と新聞社とのネットワークとの連携強化を進め、広域的な広報展開を図る。

●京都府立丹波自然運動公園

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p style="text-align: center;">—</p>
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスコート、補助競技場の夜間照明施設を設置。 ・集客イベント、利用促進イベントを実施。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約4%増加 ・陸上競技場利用率が約8%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆府負担割合は減少しているものの、約87%と他の類似府民利用施設と比較して高め。</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □利用者、利用率ともに存在価値を満たしていると考ええる。 □利用率改善に向けて、まずはHPからの予約申込みが簡単にできるように検討してはどうか。 □人件費の高さが目立つ。施設利用率アップのためにかけている人件費が利用率アップにさほど寄与していないのではないか。 □指定管理者の人員構成と人件費のガバナンスをどのように行っているのか分かりにくい。 □主要設備の利用率が5割程度であり、亀岡・南丹・京丹波には各自治体施設があることから、本施設との競合状況についての検証が必要。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎立地を考慮し、より幅広い利用者の取り込みなど、利用率の向上のための取組を実施すること。 ◎指定管理者の運営において、人員構成と人件費などの点から法人のガバナンスの健全性について精査すること。 <hr/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全線開通した京都縦貫自動車道や7月に供用開始した京都トレーニングセンターを軸に広域からの集客を図り、さらなる利用率向上を図る。 ○指定管理者のガバナンスの健全性を精査するとともに、必要に応じて助言を行う。

●京都府立木津川運動公園

<p>課題・問題点等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度から平成27年度かけて利用者が約29%増加しているものの、近隣の類似施設と比較しても利用者一人当たりの府支出額が多い。 ・現在は、近隣の類似施設と比較しても運営経費が大幅に大きいということはないが、今後の利用者動向を踏まえた体制の検討が必要。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □府民と協働して公園の利活用を推進するような仕組みとともに、企業等が参画しやすい仕組みを作ることが大切。 □民間の企画力やPR力を利用するのは不可避なので、そういう方々が参画しやすいような利用の手続きを考える必要がある。 □山城総合運動公園との近接性に加え、同じ城陽市内に立地する鴻巣山運動公園を勘案した運営を考慮すべき。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>継 続</p> </div> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎近隣施設との役割を踏まえた特色ある運営に取り組むこと。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><今後の対応></p> <p>○本公園を代表する施設である大芝生広場を生かしたイベントなど取組を継続・強化する。</p>

●京都府立るり溪少年自然の家

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p>見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南山城少年自然の家を廃止し、るり溪少年自然の家にその機能を集約すべきである。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月に京都府立南山城少年自然の家を廃止。 ・平成25年度に一時休館し、クラフト棟の新設、本館の屋根改修や洋式トイレの増設などの施設設備工事を実施。 ・環境教育にも役立つよう府有施設屋根・土地貸し太陽光発電事業で太陽光パネルを設置。 ・広域振興局と連携し、「なんたん暖炉」を設置。 ・各教育局で実施される校長会議での広報活動の強化。
<p>取組の成果</p>	<p>◇施設整備後の平成26年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約14%増加 ・宿泊者数が約3%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆宿泊室利用率が約40%と大きな改善はみられない。</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □前回指摘を踏まえた改善が順調に進んでいる。 □何にコストをかけるのが利用率及び利用者の拡大に寄与するのかをよく分析・研究してはどうか。 □府の負担率は高く、経営的には課題を抱えているが、設置意義及び現況と照らし合わせた上で総合的に検討すべき。 □小学校に限定した施設のような印象を与えているので、特に関西一円のボーイスカウト等との連携・営業の検討が必要。 □電話での予約ではなく、HPから予約できるような検討が必要。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎施設の統廃合後の利用者動向やニーズを分析し、利用手続きも含め更なる利用者拡大の取組を検討すること。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者層や地域別利用状況、ニーズを分析し、学校の利用拡大に資するとともに、青少年団体や大学の研修・スポーツ合宿等の誘致に向けた広報活動を充実する。 ○閑散期の対策として、クラフト棟での体験活動や近隣施設・地元団体と連携した取組など魅力あるプログラムをつくり提供する。 ○予約方法について、HPや電子メールを活用し、利便性が向上するよう改善を図る。

<p>前回検証結果 (平成25年度)</p>	<p style="text-align: center;">要改善</p> <p>【展示会関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者のニーズ、来館者の満足度を的確に把握し、それを展示内容に反映させるとともに、府民の関心が高い時宜にあったタイムリーな企画を柔軟に実施すること。 ・学芸員による解説ペーパーの提供や、ギャラリートーク（解説付き館内案内）の実施など、来館者への臨場感のある質の高い知的サービスを提供すること。 ・効果のあがる告知、情報発信策を実施すること。 ・特別展の企画決定にあたり、学芸員・設置者だけでなく、第三者・専門家の意見をきくシステムを構築すること。 ・学芸員が館の運営・経営に参画するなどにより経営のセンスを磨き、プロデュース力を高めること。 <p>【収益部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸展示室（別館を含む）については、民間への幅広い周知を行い、認知度を高めるとともに、和室、洋室それぞれの特徴を生かした様々な使い方の提案をするなど、利用率の向上を図ること。 ・ろうじ店舗については、周辺店舗の状況変化や来館者のニーズ分析を踏まえ、利用者を増やして収益性を高める工夫を行うこと。 ・文化だけでなく経営視点から館の運営をサポートできるよう、外部からの助言を得る仕組み等を構築すること。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展については、他の美術館等との連携強化等により、平成26年度から27年度で大幅に来館者が増加し、平成26年度は、過去最高の来館者数を達成。 ・平成25年度以降、年間を通じて展覧会においてアンケートを実施し、来館者のニーズや満足度を把握し、要望が高かった企画を開催。 ・ほとんどの展覧会で学芸員によるギャラリートークを実施。 ・各展覧会で写真と出品リストのみ掲載していた目録にわかりやすい展示内容の解説紹介文を記載し、無料で配布。 ・展示企画は、外部の専門家・第三者が企画委員や監修者というかたちで参画するほか、新聞社等マスコミや関連企業が実行委員会に主催者として加わるなど、多様な意見が集まるよう仕組みづくりを工夫。 ・質の高い文化の提供と採算経営のバランスを意識した運営に努めており、展覧会毎に入場者数目標を設定し、それを予算策定の基礎とするという経営を考慮した取組を実施。 ・5階貸展示室（洋室）は、平成26年度から、講演会・セミナー・ワークショップなど様々な催事にも貸し出している。6階（和室）は、ろうじ店舗飲食店と協力して、修学旅行生の舞妓鑑賞にあわせて昼食を提供する等の貸出し対象の弾力化を図るとともに、貸展示室の広報宣伝体制の強化を図っている。 ・別館三条ウッドデッキにおいて、平成26年から、月1回で2～3日、アートマルシェを貸会場催事として実施し、利用者増とにぎわい作りに取り組んでいる。 ・評議員、監事、理事そして展示室運営委員等に金融機関や民間経営者等の外部有識者を任用し、民間経営視点からのアドバイス、チェックを受ける仕組みを確立。

<p>取組の成果</p>	<p>◇平成26年度の利用者数が過去最高を記録。 ◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料金収入が約60%増加 ・ 特別展示室の稼働率は約14%増加
<p>なお残る課題・問題点</p>	<p>◆利用料金収入が増加している一方で、府支出額も増加。今後の追加投資について精査が必要。</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<p>□改善すべき点に着実に着手できており、成果が出ている。 □充実した企画や経営努力により、過去と比べてはるかに府民の間での京都文化博物館の評価は高くなってきている。 □現在収益性の担保は特別展となっていることは否めないため、本来目的の企画を研ぎ澄まし、その領域でコストに見合った収益性の改善も意識していただきたい。 □府の負担割合は50%を切っているが、今後5年以内に大規模な改修が必要であることから、追加投資額をベースとした事業計画案を早期に作成することが望ましい。 □フィルムシアターについては、日本の映像資産を形成している宝庫であることから、関係団体とも協力の上アーカイブ化について検討してはどうか。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎近年の利用者拡大に向けた取組を更に進めつつ、特に大きな収益源となっている特別展以外の常設展を工夫するなど、更なる取組の検討を行うこと。</p> <p>◎フィルムシアターについては、映像資産として価値あるものであることから、関係団体とも協力の上、アーカイブ化の仕組みについて検討すること。</p> <p><今後の対応></p> <p>○常設展については「ほんまもん展示」やギャラリートーク等の充実を図るとともに、新しいデジタル技術を活用するなどエンターテインメント性の高い映像展示や、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、海外からの来館者にも分かりやすく楽しめる多言語対応等、利用者ニーズに幅広く応じる展示室のリニューアルを検討する。</p> <p>○京都の貴重な映画映像資料のアーカイブ化の仕組みを検討する。</p>

●ぶらり嵐山

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p style="text-align: center;">—</p>
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府アールブリュッ都ギャラリー（障害者のアート活動展示）を設置。 ・ 陶芸体験コーナーを実施し、「障害のある人の仕事」に触れ合う機会を演出。 ・ 障害者施設 23 施設により嵐山マルシェを開催。 ・ 旅行者の休憩場所としての快適な環境づくりに努めた。
<p>取組の成果</p>	<p>◇平成27年度の利用者数が過去最高を記録。</p>
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆管理運営費は減少しているものの、府負担割合は増加。</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □近年の実績からすると、事業目的に合致し、効率的で府民満足度も相当の内容が展開されていると考える。 □利用者数は大きく増加しており評価する。 □全体最適で見て有効活用できているのかどうかを考える必要がある。 □海外からの観光客の動向も踏まえ、収益を上げることができるよう「売れる商品」づくりを検討することにより、施設経営の健全化に加え、高齢者や障害のある方々への還元にも繋がることが望まれる。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎海外からの観光客が好影響をもたらしていることを踏まえ、増加する観光客向けに売れるような商品づくりなど、自主財源の確保を検討すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○現在の売り上げ状況を把握・分析した上で、売れ筋商品を拡大し、京都らしさや日本の文化といった観光ニーズにマッチした製品を開発するなど魅力ある商品提供を強化し、更なる集客増・売上増に繋げたい。</p>

●京都府民総合交流プラザ

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の設備改修の内容については、十分精査すること。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な修繕を実施。 ・ 夜間利用の拡大のための割引制度を導入。 ・ 駐車場の夜間割引を実施。 ・ 大規模学会等の利用促進を実施。 ・ 館内団体関連催事の効率的な受け入れを実施。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数が約1%増加し、過去最高を記録 ・ 利用料金収入が約10%増加 ・ スポーツホール利用率が約1%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆物件費が約4%増加しており、追加投資の精査が必要</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□近年の実績からすると、類似施設が近隣にあるものの、府民の認知度は高く、設置意義への理解を得ていると考える。</p> <p>□利用率等を見ると改善の余地があるので、PR及び利用促進する企画を検討すべき。</p> <p>□会議室の利用促進につながるような工夫が必要。</p> <p>□施設利用の申込を施設のHPから簡単にできるようにするとともに、HPの再構築を検討してはどうか。</p> <p>□夜間利用割引について、全体利用者の底上げとなっているかのシミュレーションが必要。</p>
<p>京都府の検証結果 及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎近年の実績が好調に推移しているものの、利用率に改善の余地があることから、施設利用者ニーズや利用手続のしやすさを踏まえた柔軟なサービスを検討し、利用率の改善を図ること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○効果的な広報と利用者・利用率の向上につなげるため、予約システムの改善も含めたWEBコンテンツ等の見直しを進める。</p> <p>○利用促進を図るため、会議室・駐車場の夜間利用割引について、27年度からの試行の状況を踏まえ、今後の正式実施に向けた効果検証を行う。</p>

●丹後王国「食のみやこ」

<p>前回検証結果 (平成25年度)</p>	<p>見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度に入園者が8万人台まで減少、その後地元市町や丹後地域の農業商工観光関係の団体個人で結成された丹後あじわいの郷協力会との連携により、月例祭の開催など賑わいを取り戻し最近では11万人程度に回復してきた。 ・また、「丹後食の王国」の拠点施設としての位置づけ、さらに今年度からは丹後の若手農業経営者を育成する「丹後農業実践型学舎」として活用を図っている。 ・今後は、今回の検討委員会の意見を踏まえ、「丹後の食の拠点」・「農業漁業等の人材育成の拠点」・「幅広い交流の拠点」としての役割を担う施設として深く検討していく。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年4月にリニューアルオープンを実施。 ・丹後地域2市2町の住民を対象とした優待パスポートを発行。 ・第三種旅行業の許可を得て、農家民宿や他の観光施設と連携し着地型観光に取り組む。 ・地元食材を活用した料理メニューや加工品の開発・販売を実施。
<p>取組の成果</p>	<p>◇リニューアル後の平成27年度は、利用者数が5倍の過去最高を記録。</p>
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆地域経済に寄与する運営が必要。</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □民間活力を導入し利用率の向上など大きな改善が認められる。 □地域商品化の展開により、丹後地域の地域創生拠点としての一層のにぎわいが期待される。 □今回のリニューアル効果として、地域経済にどれだけ寄与するか検証が必要。 □府の負担については、近隣の雇用対策という点も踏まえて総合的な検討をした場合、評価する。 □リニューアル効果は一気に落ちていくことが予想される中、余力のある現時点で、将来的な方向性を見据えた調査研究を提案したい。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎今回のリニューアル効果が地域経済にどれだけ寄与するのか検証しつつも、リニューアル後の将来性を踏まえた運営を計画すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○入園者の確保を図るため、地元食材を利用した新メニュー開発や丹後の食・文化・伝統を活かし地域と連携した魅力あるイベント等を充実させる。</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">○丹後地域の地域創生拠点として、丹後の道の駅や観光農園等地域と連携した丹後のPR活動や観光施設と連携した着地型観光の推進、丹後の農林水産物や加工品のPR・販売を通じた丹後地域全体のブランド化により、地域経済へのさらなる貢献を図る。○丹後農業実践型学舎・海の民実践型学舎等、人材育成の拠点として、丹後の「食」を担う次世代の人材育成をさらに展開する。 |
|--|--|